

(県立熊本高等) 学校 令和6年度(2024年度)学校評価評価表

1 学校教育目標

建学の精神である「士君子」の養成を教育目標とし、徳性、智能、体力ともにすぐれた人物を養成することを方針とする。また、「深い自己理解のもと、個性を生かし、社会に積極的に関わっていく、自立した個人」をSI(スクール・アイデンティティ)として規定し、教育に取り組む。

2 本年度の重点目標

「士君子タルノ修養」を最上位の目標に掲げ、生徒の自主性と成長の可能性を信じて教育活動に邁進し、校訓の冒頭にある「誠実」な心、人生を豊かにする「教養」、美しいものに心動かす「感性」を育む。加えて、スクール・ミッションに掲げてあるイノベーティブでグローバルな人材を育成するために、ICTを積極的に活用するなどして、新たな教育へも果敢に挑戦し、高度で深い学び、探究的な学びを展開する。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	「士君子」 養成 (志の高揚)	学校文化の 継承	学校活動全般 に建学の精神 を反映させる	職員間で適宜 積極的な意見 交換を行い、生 徒に投げかけ ながら学校全 体で取り組む	A	職員間の意見交換が生徒 の学習活動や学校行事に 反映し、組織的な体制によ る充実した教育活動が行 われた。生徒は文化祭や体 育祭などの主要な行事を 経験したことで主体性が 育まれ、対外的な活動にも 積極的に参加した。生徒会 活動も生徒議会が定期的 に開催されるなど、主体的 に活動した。
	安全管理の 整備		学校活動全般 における安全 管理に対する 高い意識を持 ち、安全で、かつ 安心した生 活を送ること ができる	防災主任、健康 安全係を中心 に、校内安全点 検の実施及び 自然災害時に 対応したマニ ュアルと体制 に基づき取り 組む	B	年3回の定期的な安全点 検を、報告の徹底等、職員 全体で協力して行うこ とができた。指摘のあった危 険箇所に対する対応も速 やかに行われた。防消火避 難訓練の実施や熊本市震 災対処訓練への参加等、危 機管理マニュアル等に沿 った確認と行動を実践で きている。マニュアルにつ いては、様々な状況を想定 して隨時見直しをする必 要がある。生徒・職員の安 全に対する意識の更なる 醸成が課題である。
	開かれた学 校づくり	情報の 公開	学校の取組を 速やかに情報 発信する	情報管理係を 中心に、ホーム ページの更新・ 充実(特に学校 行事)を図る	B	文化祭・体育祭などの大 きな学校行事の様子は発信 することができた。生徒・ 保護者への連絡は「すぐ一 る」を利用するなど使い分 けている。情報発信の充実 が今後の課題である。
			学校や授業の 公開	授業公開や学 校行事をでき る		年2回の公開授業を、本校 保護者向けと中学3年生 向けに分けて実施するこ

			るだけ多くの方に公開する	者や中学生、地域の方を案内する	A	とで、混雑を分散させて実施することができた。文化祭・体育祭の公開は昨年同様にコロナ禍前に戻り、大盛況であった。
		育友会との連携	育友会総会・学年別懇談会・保護者会の充実を図る	各学年や対外連携係を中心に行い、育友会役員と連携を図り、従来の形式・計画による育友会行事を再構築して実施する	A	育友会総会や学年保護者会などをはじめとする、育友会行事を昨年同様にコロナ禍前の規模で実施することができた。
	業務改善 働き方改革	勤務環境等の整備	行事の精選及び校務分掌の見直しを行うとともに、相互信頼に基づいた心身ともに安心感のある職場環境を目指す	勤務実態調査、学校自己評価、校長面談等による意見交換を通して適宜改善を図る	A	勤務実態調査をもとに職員の健康状態を把握し、超過勤務の改善に努めた。職員会議・研修を縮減したり、定時退勤の期間を設けたりするなどの取組を行った。ストレスチェックを通して職員の健康状態を確認し、産業医による指導・助言を仰いだ。
学力向上	授業の質の向上	職員間による指導内容の共有化	単元の区切りごとに年間指導計画をもとにした教科会及び授業研究会を実施する	各教科で十分に検討のうえ指導計画を作成し、授業相互見学や研修会等を通して教科の枠を越えて指導計画の共有を図る	B	教科・科目内では、単元ごとに指導計画や内容の検討が行われ、授業の質の向上につながった。教科の枠を超えての授業見学も一定程度見られたが、より活発な教科間交流が行われるよう働きかけたい。
	考查の質の向上	思考力を深める 考查問題の作成	考查問題(定期考查、校内模試、実力養成考查)の充実を図り、特に校内模試では進路指導の中核となる問題の質を確保する	教務課、進路課が立案する考查実施計画に基づき、各教科で十分な検討を行い、デジタル採点も活用しながら、質の高い考查問題を作成する	A	校内模試は本校進路指導の拠り所となるものであり、また定期考查は授業内容の定着度を見る意味を持つ。本校の進路指導の両輪ともいえる考查であり、各教科・科目とも十分に時間を割き、質の高い問題作成に力を注ぎ、学力向上や進路実現につながった。
キャリア教育（進路指導）	生徒の進路目標実現	次代のグローバル社会を担う、自主的探究心を持つ人材育成	探究活動及びSTEAM教育の充実を図る	教育研究課、教務課を軸に外部団体との連携や、ICTの積極的な活用により、総合的な探究の時間を中心に取り組む	A	「総合的な探究の時間」の実施方法や発表手順、発表などが定着し、鍛磨できている。ICTの活用や探究型の授業の推進に関して十分な支援体制を整えることができた。先端分野である独自のVR空間の活用も精度を上げることができた。コロナ禍で途切れた海外研修は再開できたが、職場体験の復活と活性化が課題である。

		生徒の進路意識の高揚	進路に関する個人面談を実施する	年2回以上、各学年で立案、実施する	A	入学直後に進路観を講話でフラット化した後、巡回面談など濃密な個人面談を学校全体で取り組み、進路意識の高揚を図った。低学年時からの難関大や医学科志望者への情報発信・指導も増えた。
		職員間の進路情報を共有化	進路検討会参加を通して進路情報を共有する	進路検討会を年2回実施するとともに、先進校及び難関大視察を行う	A	年間2回の進路検討会を実施し、各生徒の詳細な進路選択状況の情報共有を図った。医学科入試研修、東大京大入試動向研究もウェブ共有配信できた。先進校視察、難関大視察も継続実施した。
生徒指導	品位・品格の定着と良識ある行動	端正な制服の着用	士君子として品位ある制服の着用ができるようにする	必要に応じて整容指導及び登校指導を実施する	B	制服規定について、諸規定の改定を行った。整容指導について、日々の学校生活を通して全職員で指導に取り組んだ。服装検査は自律心向上を目的として、職員主導から生徒（室長・副室長）主導の形式に変更して実施した。
		交通安全に関する意識向上	危険事例について生徒も含め情報を共有する	朝礼、LHRやICTを活用して共有を図るとともに、ヘルメット着用を推進する	B	交通安全講習会や掲示、全校生徒への連絡・周知に努めたものの軽微な自転車事故の発生件数は例年並みであった。令和7年4月からのヘルメット着用許可条件化に向けて、許可手続きの見直しや全校生徒への周知を行うことができた。
	自主自立の精神の涵養	学校行事への積極的取組	各種学校行事に主体的に参加する態度を育む	生徒課・各学年が連携して、立案する	A	生徒会総務委員会と各実行委員会が各課・各学年と連携しながら学校行事の企画・運営に取り組むことによって、生徒の主体的な参加につながった。
		ボランティア活動の推進	ボランティア活動へ積極的に参加する態度を育む	各クラスのボランティア推進委員に生徒への啓発・働きかけを促す	B	部活動単位でのボランティア推進委員の働きかけにより、より多くの生徒が校内外でのボランティア活動に、積極的に参加了。
	学校生活への不安を抱えた生徒への対応	保護者との連携強化	生徒に関する気づきについて、必要に応じて速やかに保護者へ連絡、情報の共有を図る	教育相談係・各学年等で連携して日常的な気づきの機会を増やし、面談等も行いながら適切に保護者と連携する	B	担任と保護者が面談や電話連絡等を通じて連携を密にし、該当生徒の情報を関係職員とすみやかに共有することで、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに繋げる等、迅速かつ組織的に対応することができた。

人権教育の推進	人権学習の取組みの充実	生徒の人権意識の向上・自尊感情の育成	年間3回以上の人権をテーマとするLHRを実施する	人権教育推進委員会で実施計画を立案し、学期に1回各学年で取り組む	B	人権学習を学期1回のLHR及び講演会で実施することで、生徒の人権意識の向上を図ることができた。
		特別支援教育の充実	校内研修を実施し、職員間の情報の共有化を図る	特別支援教育コーディネーターを中心として研修計画を立案、支援を要する生徒の対応を中心に学校全体で取り組む	B	関係職員を中心に個別の教育支援計画について情報共有し、作成・更新の有無について確認することができた。さらに、次年度に向けて、既存の委員会で、組織的に取り扱う方向で準備を進めることになった。
	命を大切にする心を育む指導	生命の尊重や自尊感情の育成	ソーシャルスキルトレーニングといった、他者を尊重すると共に自尊感情を育む取組を実施する	教育相談係と各学年で連携し、学校行事・LHR等で適宜実施する	A	昨年度に続き保健委員の意見を参考にしたプログラムを実施した。3年生のプログラムではより楽しめるようシート作成を工夫した。どのプログラムも生徒たちの反応が良かったと担任から聞くとともに感想文からも読み取ることができた。年間を通して実施できるとより良いものになると考える。
いじめの防止等	未然防止	職員の連携強化	様々な場面で生徒の様子を観察し、職員間で情報を共有する	生徒課及び教務課が立案する年3回の授業相互見学の他、適宜職員間で情報を共有し、組織的に対応する	A	担任や関係職員が面談等を通じて生徒の状況を細やかに把握し、情報集約担当者に随時報告することで、迅速かつ組織的に対応することができた。また、授業相互見学を各学期に1回実施し、生徒の様子を観察することで得た情報を共有できた。
	早期発見	生徒の実態の把握	個人面談や心のアンケートなどを通して早期の気づきにつなげる	教育相談、各学年で年2回以上の個人面談や年2回以上の心に関するアンケートを立案・実施し、いじめ案件があれば情報集約担当者を中心として組織的に対応し、必要に応じて保護者との速やかな連携を図る 欠席10日を超える生徒の情報を集約し、定期的に観察する	A	各学年で連絡会を実施し、生徒の情報を共有することで日頃の支援に繋げた。6月と12月実施した2回のアンケートの結果を参考にしながら、悩みや課題を抱えている生徒に対し、迅速に組織的な対応を行った。学年会後に学年主任が情報集約担当者に生徒の状況を報告し、事案を早期に共有することで組織的な対応を進めることができた。欠席10日を超える生徒を定期的に確認し、該当生徒の状況を確認したことで、学年・養護教諭やSCなどと連携して組織的な対応を行った。

教育環境の整備	教育の情報化	教育の情報化の促進	オンライン学習の充実に資するようＩＣＴ機器の充実や操作の習熟を図る	一人一台端末の活用を軸に、ＩＣＴ活用係の立案に基づいて取り組む	B	授業等、学習活動における端末使用について、効果の上がる使用頻度・使用方法についてさらに磨きをかけていく必要がある。
	環境保全・環境美化	校舎内外の整備と美化への取組	清掃活動へ積極的に取り組む姿勢を育む	日常的な清掃に加え、健康安全係が立案する年2回の除草作業にも積極的に取り組む	B	複数の委員会の協力のもと、5月に全校生徒および全職員で協力して除草作業を行うことができた。日常的な清掃では設備の老朽化や掃除監督教諭数の減少が課題である。
	図書館の充実	図書館の積極的活用	各教科や総合的な探究の時間における図書館利用の拡充を図る	図書放送係の立案に基づき図書委員を積極的に活用しながら取り組む	B	多様な学びを保障するため(洋書を含め)書店等で生徒が出会えない本を努めて選書した。また、委員生徒を中心に生徒目線での選書にも努めた。
地域連携	地域とともにある学校づくりの推進・地域防災組織の構築	教育活動の充実、地域・関係機関との連携強化	学外の視点を取り入れながら、本校教育全般の充実を図る	年2回学校運営協議会を開催し、委員の意見を学校の教育活動や、学校防災の推進体制に反映する	A	地域の実態や外部の専門的な見地から学校運営に資する貴重な意見が得られ、今後の修正・改善に向けて参考となった。安全危機管理について防災組織・体制を確認し共有した。

4 学校関係者評価

- ・本校の質の高い授業実践を軸にして、生徒の学力や進路選択の状況を常に職員間で共有し、継続的な授業改善、入試改革への対応が求められている。
- ・自転車通学生の登下校時における交通事故が増えている状況は憂慮される。危険から生徒を守るために、生徒の交通安全意識を高揚するために警察等の外部機関と連携し、予防的措置に努めることが重要である。
- ・校則については、生徒の生活実態に応じたものとして服装等の規定が改定されている。今後も継続して生徒及び保護者と職員間で協議する機会を設け、検討していくことが必要である。
- ・不登校などの課題を抱えた生徒に対して、ＳＣをはじめとした外部の専門機関と連携を図り、早期対応を前提として組織的な支援体制を確実に整備しておく必要がある。
- ・大雨や台風等の気象災害における緊急対応について、生徒・職員の安全を守るために連絡体制の強化を図っておく必要がある。また、震災時の避難所運営に関して、本校の『危機管理マニュアル』を定期的に確認し自治体と連携して迅速に対応できるよう体制を整えておく必要がある。

5 総合評価

- ・スクール・ミッションに基づく学校教育目標の実現に向けて、各課・各学年で計画的・組織的に取り組まれている状況が反映し、全般的に高い評価となっている。
- ・学習・進路面は、職員が難関大学に関する研修や進路検討会に参加して研鑽を積んだり、各教科で教材研究や作問の検討会を行ったりする機会を通して、本校が目指している質の高い授業や充実した進路指導が実践された。
- ・生活面は、服装規定の見直しに向けて職員で意見交換を行った上で、生徒・職員、生徒・保護者が意見交換を行う機会を設けるなどして検討が重ねられ、規定の追加・変更等を行った。また、委員会活動を主に交通安全意識を啓発したり、防災訓練を実施して意識の高揚を図ったりするなど、安全危機管理に関する取組が実践された。
- ・ＩＣＴの活用については、感染症予防や実施時間の短縮化を図るために全校集会や学年集会をオンラインでの実施を継続する。授業での活用やテストのデジタル採点などに活用の範囲も広まっており、内容の充実度も高まっている。

6 次年度への課題・改善方策

- ・本校の伝統として慣習的に行われてきた取組や学校行事等について、多角的な視点から見直し、伝統を守る姿勢を有しながらも生徒の実態と職員の働き方改革を念頭に弾力的に教育活動を展開していく。
- ・校内の安全点検を学期ごとに行い、安全管理に努めているが、校内施設の老朽化に伴う不備も見られるため生徒の学習環境の整備を中心に校内施設の改善を図っていく。

- ・生徒の安全安心な学校生活を保障するという観点から、服装面等に関する生活指導の規定の見直しについては早急に進めていくのではなく、多角的な見地による生徒・保護者・職員間の慎重な意見交換を経て段階的に整備していく。
- ・人間関係の不和や様々な課題等により不登校傾向にある生徒を支援するために、S C や S S W 、医療機関などの外部専門機関との連携を深め、心の悩みの的確な把握と解消に向けての組織的・効果的な対応を推進する。併せて、人権感覚の醸成を図り、いじめのない学校づくりを職員と生徒で築いていく。
- ・自転車通学生の交通事故を生徒課が中心となって予防・改善していく。次年度からヘルメット着用が自転車通学の条件となることから、委員会活動をはじめ、啓発活動を活発化させる。
- ・I C T の活用については、多くの授業で生徒一人一人に貸与されているタブレットを活用しているが、今後も効果的な活用がされるよう、校内研修等を通して普段の授業実践に繋げていく。